新潟の人が語る達人

宮力

「地酒王国」の小さな蔵の挑戦。酒を通して風を興せ!

尾畑さんは佐渡の小さな酒蔵に生まれ、大学を卒業した後は「日本ヘラルド映画」という映画会社で宣伝の仕事に携わる。そこでは、ブームを作り、ヒットを出すことが求められたという。蔵に戻った尾畑さんはトレンドとは別の次元で、自分の生まれた蔵の「個」を大切にしている。

尾畑酒造株式会社 常務取締役

尾畑留美子さん

尾畑さんの考える良いお酒は、香りや味わい、喉越しも含めてバランスの取れたお酒。「人も同じように考えると、個性豊かな人が集まることで、その場にバランスが生まれます。そのバランスを大切にするために、減点主義ではなく加点主義で長くお付き合いをしたいです。」と尾畑さん。

何もしなかったらゼロ 一歩を踏み出す行動力が大事

以前の職場である映画会社は、若い人たちがどんどん仕事をまかされる環境だったという。「映画会社で学んだのは"何もしなかったらゼロ"ということ。失敗を恐がらない。それは"挑戦の結果"です。だから、蔵に戻った後に父が"国際線の飛行機の上で真野鶴が飲めたらいいなぁ"とつぶやいた時も、『じゃあ、やってみよう』と。エールフランスの名前がまずパッと浮かびました。フランスは小さなワイナリーもきちんと評価されている国なので、無名の小さな酒蔵でも大丈夫だと信じたのです」。

行動を起こしてから1年以上たった2002年のクリスマスイブの夕方に採用の電話を受け取った。「コネは全くなかったのですが、躊躇していたら始まりません」と語る尾畑さんは、頭であれこれ考えているばかりではなく、一歩を踏み出す勇気のある女性。「小さな一歩を踏み出さないと、目指す未来は永遠にやってきません」という尾畑さんからは、「それなのにどうして踏み出さないの?」という声が今にも聞こえてきそう。

華やかな映画業界の中でブームを作りトレンドを追い求めていたからこそ、その危うさと脆さは痛いほどに感じている。「新潟の小さな酒蔵が長く生き続けて行くためには、必ずしもブームにのる必要はありません。先祖が残してくれた蔵を大切にして、次世代の人たちに託しつなげることが、蔵に生まれた私の使命です」。

尾畑酒造の「真野鶴」は6年連続で金賞を受賞し、連続受賞記録では新潟で最長となった。「こんな小さくて古い蔵でも、新潟県で一番になれることを証明できました。蔵人たちも大変だったと思いますが、素敵なお酒を造ってくれました。そして何より、うちの蔵をずっと応援してくれたお客様や酒業界の人たちに少しでも恩返しができたことが嬉しかったです」。この言葉から、尾畑酒造とお客様の小さな蔵ならではの温かい距離感が感じられる。また、尾畑さん自身が仕事の中でつながってきた多くの人たちに対する感謝の気持ちも溢れている。ビジネスという場で、そんな気持ちでいられる人たちに囲まれているのは幸せなことに違いない。

「新潟に戻ってから、素敵な人や仕事にたくさん巡りあえたと思います。けれどそういう出会いは待っていてもやって来てはくれません。逆にすべての出会いが自分にとって素晴らしいとも限りません。10の出会いのうち、3つが私の宝物になるかもしれない。そのために必要なのは、やはり10の出会いをすること。"めざせ!割バッター"です(笑)」とまっすぐな視線を投げかける。

尾畑さんおすすめ

真野鶴 大吟醸

日本海を越えて寒波がもたらす佐渡の雪。その雪解け水が地中に染み込み、山の麓に湧き出す水は清冽を極める。その豊かな軟水と高品質な米で仕込んだ「真野鶴」。35歳の杜氏をはじめ蔵人は今では稀になった冬期間無休の蔵人泊り込みの早朝仕込を行い、新潟県最多6年連続金賞受賞という快挙を成し遂げた。米の旨みを感じる淡麗辛口。"年に質み

グローバル化した時代こそ、小さな生産者は「地」の個性を

尾畑酒造は独自のルートで酒をリカ国に輸出している。「輸出を始めてから、海外というフィルターを通すことによってたくさんの日本酒の魅力を再発見しました。それと、外に出れば出るほど、地(地元)や個をより強く意識するようになってきましたね。グローバル化が進む時代、小さな生産者はより"地"の個性を大事にしなくてはいけません」

日本酒はその地の自然と気候風土、人や文化に育まれたもの。地酒王国として知られる新潟の酒の魅力は、そのまま新潟の魅力でもある。

「酒を通して発信から受信までしていきたいですね。新潟は豊かな食の宝を持つ、偉大なる農産県です。新潟の酒を知った世界中の人たちに新潟を訪れてもらって、ここでおいしい料理とともに新潟の酒を楽しんでもらいたい。それが一番おいしい『地酒』ですから」。尾畑さんの住む佐渡は大自然に恵まれ、海の幸山の幸と豊富な島だ。

「最近、お酒だけでなく美味しい佐渡のものを知ってもらえるように、と農産物にも目を向けています。生産量には限りがあっても、手間をかけて育てられた良いものがたくさんあります。その作り手とお客様を結んでいきたい。それに、うちのお酒にはやっぱり地元の香が一番合いますからね」。自社のお酒だけでなく新潟の「食」にも働きかけていこうという尾畑さんの周りには新しい風が吹き始めていた。

尾畑酒造株式会社
槽搾／清酒製造
および販売
会社設立／明治25年
代表取締役／尾畑俊一
資本金／1千万円
年間売り上げ／約4億円